育教理地
歌唱道鐵
第四集

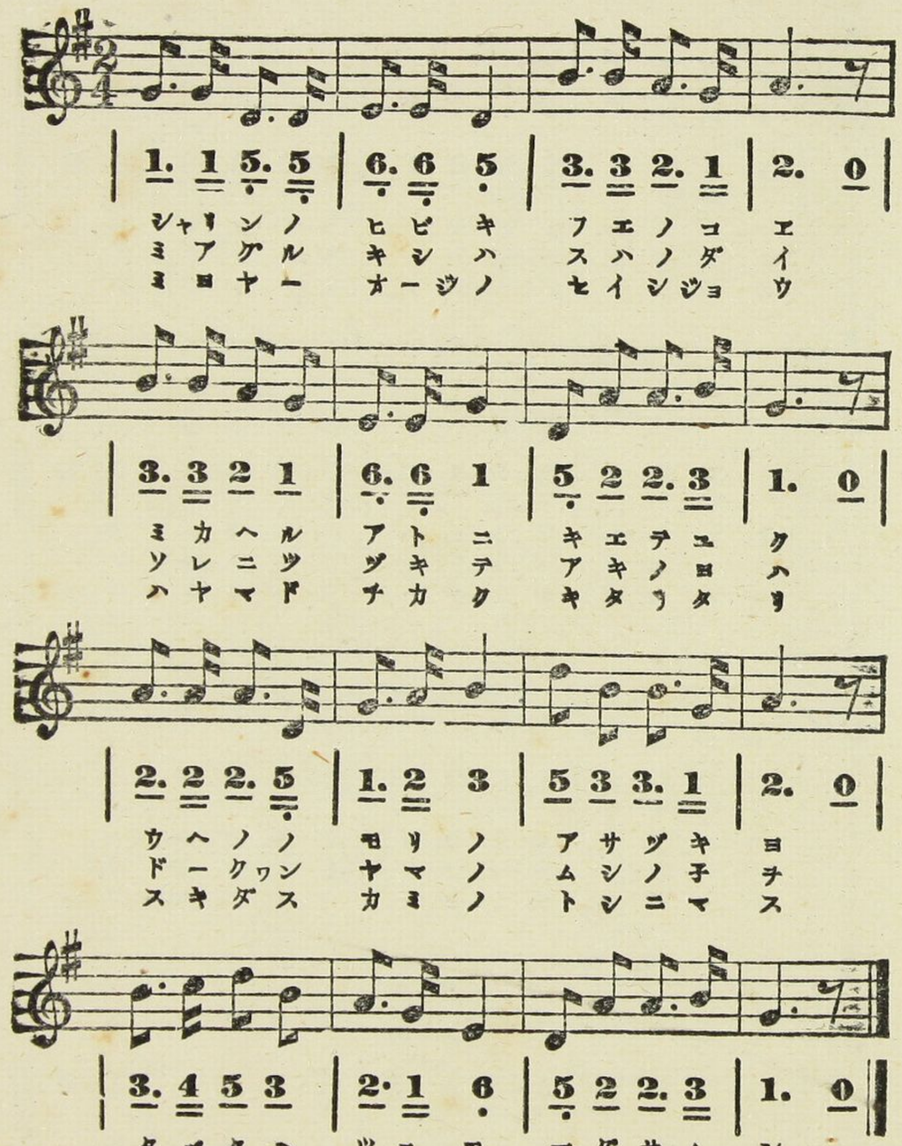
學習院助教授　納所辨次郎作曲
東京女子師範學校助教授　吉田信太作曲

地理教育鐵道唱歌　第四集

大和田建樹作歌

鐵道唱歌（四集）

納所辨次郎作曲



地理歌育 鐵道唱歌 第一集 東海道

地理歌育 鐵道唱歌 第二集 山陽、九州

地理歌育 鐵道唱歌 第三集 東北地方

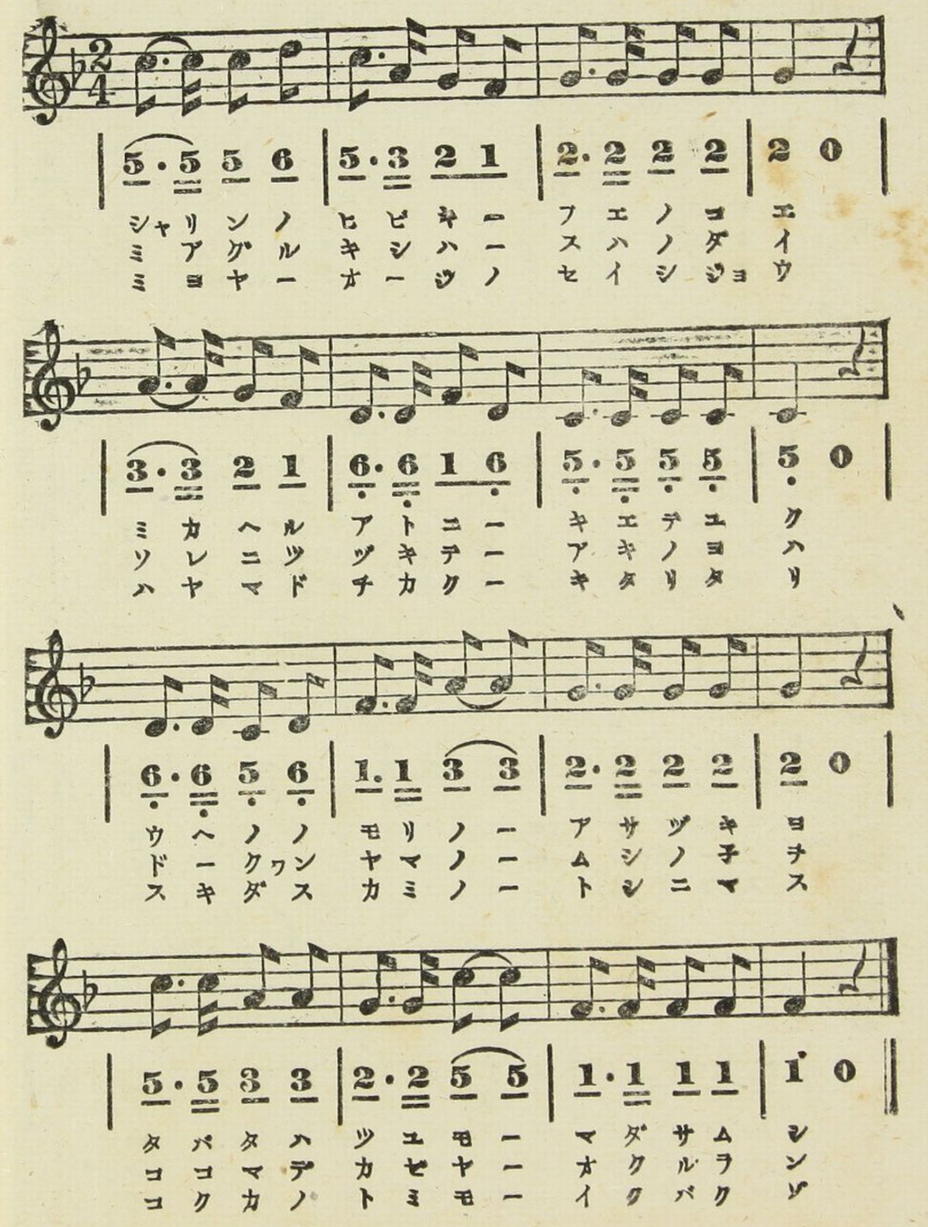
地理歌育 鐵道唱歌 第四集 北陸地方

地理歌育 鐵道唱歌 第五集 畿内及隣邦

地理歌育 世界唱歌 全二冊 新刊

鐵道唱歌〔四集〕

吉田信太作曲



北陸地方

一

車輪のひびき笛の聲
みかへる跡に消えて行く
上野の森の朝月夜

二

田端は露もまださむし
見あぐる岸は諏訪の臺
それにつゞきて秋の夜は
道灌山の虫のねを
こゝまで風や送るらん

上野

田端

三　見よや王子の製紙場
はや窓ちかく來りたり
すきだす紙の年にます
國家の富もいくばくぞ

四　春はさくらの飛鳥山
秋は紅葉の瀧の川
運動會の旗たてゝ
かける生徒のいさましさ

王子

五　まもなくきたる赤羽は
品川ゆきの乘替場
目白目黒の不動へも
よれや序の道なれば

赤羽
品川

六　蕨すぐれば浦和にて
その公園は調の宮
埼玉縣の縣廳も
この地にこそは置かれたれ

蕨
浦和

七

大宮おりて八九町
ゆけば氷川の公園地
園は螢に名も高く
宮は武藏の一の宮

大宮

八

上尾桶川鴻の巣に
近き吉見の百穴は
古代穴居の人のあと
見るも學びの一つなり

上尾
桶川
鴻巣

九

吹上すぎてながめやる
熊谷土手の花ざかり
次郎直實生れたる
村の名今につたへたり

吹上
熊谷

十

深谷本庄神保原
左に雲のあひだより
みゆる秩父のふもとなる
大宮までは馬車もあり

深谷
本庄
神保原

十一　はや新町も倉賀野も
　　またゝくひまに行きすぎて
　　今ぞ上州高崎の
　　繁華の町につきにける

十二　町の東北前橋へ
　　汽車にてゆけば十五分
　　群馬縣廳所在の地
　　上野一の大都會

新町
倉賀野
高崎

十三　若葉紅葉によしときく
　　伊香保の溫泉榛名山
　　高崎よりは程ちかし
　　避暑にも人のゆくところ

十四　みわたすかぎり青々と
　　若葉　波　うつ　桑畑
　　山のおくまで養蠶の
　　ひらけしさまの忙がしさ

十五 線路わかれて前橋の
かたにすゝめば織物と
製絲のわざに名も高き
桐生足利とほからず

十六 高崎いでゝ安中の
つぎは磯部の溫泉場
うしろをゆくは碓氷川
まへに立てるは妙義山

・前橋
・桐生
・足利
飯塚
安中
磯部

十七 鉾か劍か鋸か
獅子か猛虎か荒鷲か
虛空に立てる岩のさま
石門たかく雲をつく

十八 あとに見かへる松井田の
松のみどりもかげきえて
はや横川につきにけり
おりよ人々水のみに

松井田
横川

十九　これより音にきゝぬたる
碓氷峠のアプト式
歯車つけておりのぼる
仕掛は外にたぐひなし

二十　くゞるトンネル二十六
こもし火うすく畫くらし
いづれば天地うちはれて
顔ふく風の心地よさ

三　夏のあつさもわすれゆく
旅のたもとの輕井澤
はや信濃路のしるしとて
見ゆる淺間の夕煙

三　くだる道には追分の
原こよばるゝ廣野あり
桔梗かるかや女郎花
秋の旅路はおもしろや

輕井澤

二三　御代田小諸とすぎゆけば
左に來る千曲川
立科山をながめいれ出て
末は越後の海に入る

御代田
小諸

二四　諏訪の湖水をみる人は
大屋をおりて和田峠
こゆれば五里の道ぞかし
山には馬も駕籠もあり

田中
大屋

二五　上田をあとに走りゆく
汽車は坂城に早つきぬ
川のあなたにながめやる
山は姥捨月見堂

上田
坂城

二六　田毎の月の風景も
見てゆかましを秋ならば
雲をいたゞく冠著の
山はひだりにそびえたり

二七 屋代篠井うちすぎて
わたる千曲と犀川の
間の土地をむかしより
川中島こと人はよぶ

二八 こゝに龍虎のたゝかひを
いどみし二人の英雄も
おもへば今は夢のあと
むせぶは水の聲ばかり

屋代
篠井

二九 長野に見ゆる大寺は
是ぞしなのゝ善光寺
むかし本田の善光が
ひろひし佛なりとかや

三十 こゝにとゞまるひまあらば
戸隠山にのぼり見ん
飯綱の原のほとゝぎす
なのる初音もきゝがてら

長野

三一　豐野と牟禮と柏原

ゆけば田口は早越後

軒まで雪の降りつむこ

きゝし高田はこゝなれや

三二　雪にしるしの竿たてゝ

道をしへしも此あたり

ふゝきの中にうめらるゝ

なやみはいかに冬の旅

吉田　豐野　牟禮　柏原　田口　關山　新井　高田

三三　港にぎはふ直江津に

つきて見そむる海のかほ

山のみなれし目には又

沖の白帆ぞ珍しき

三四　春日新田犀潟を

すぐれば來る柿崎の

しぶ〳〵茶屋は親鸞の

一夜宿りし跡と聞く

直江津　春日　新田　犀潟　潟町　柿崎

三五 鉢崎すぎて米山の
くゞるトンネル七つ八つ
いづれば廣きわたの原
佐渡の國までくまもなし

三六 みわたす空の青海川
おりては汐もあみつべし
石油のいづる柏崎
これより海こわかれゆく

鉢崎
青海川
柏崎

三七 安田北條來迎寺
宮内すぎて長岡の
町は名たゝる繁花の地

安田
北條
塚山
來迎寺
宮内
長岡
見附
帶織

三八 汽車の窓より西北に
製油の烟そらにみつ
ゆく〳〵望む彌彥山
宮は國幣中社にて
參詣男女四時たえず

三九　彌彦にゆくは三條に
おりよと人はをしへたり
吾身は何も祈られど
いのるは君が御代のため

四十　加茂には加茂の宮ありて
木の間の鳥居いと清く
矢代田驛の近くには
金津の瀧の音たかし

三條
一ノ木戸
加茂
矢代田

四一　十一年の御幸の日
かたじけなくも御車を
こゞめ給ひし松かげは
今この里にさかえたり

四二　もみぢは新津秋葉山
櫻は龜田通心寺
わするな手荷物傘鞄
はやこゝなるぞ沼垂は

新津
龜田
沼垂

四三

おるればわたる信濃川
かゝれる橋は萬代の
名も君が代ときはにて
長さは四百數十間

四四

川のかなたは新潟市
舟ゆく水の便よく
わたせる橋をかぞふれば
およそ二百もありこかや

新潟

四五

春は白山公園地
一つにほふ梅櫻
夏は涼しき日和山
鯛つる舟も目の前に

四六

汽船の煙海をそめ
商家の軒は日をおほふ
げにも五港の一つとて
戸數萬餘の大都會

四七

新潟港を舟出して
海上わづか十八里
佐渡に名高き鑛山を
見てかへらんも益あらん

四八

佐渡には眞野の山ふかく
順徳院の御陵あり
松ふく風は身にしみて
袂しぼらぬ人もなし

佐渡へ汽船にてわたる

四九

波路やすけく直江津に
かへりてきけば越中の
伏木にかよふ汽船あり
いざ乘りかへて渡海せん

五十

富山は越中繁華の地
こゝよりおこる鐵道は
加賀越前をつらぬきて
東海道にでゝあふなり

佐渡より直江津まで直江津より越中まで汽船にてわたる

富山

五一　藥に名ある富山市は
　　神通川の東岸
　　はるかに望む立山は
　　直立九千九百尺

小杉

五二　商業繁華の高岡を
　　すぎて福岡石動の
　　次に來るは津幡驛
　　七尾にゆかば乘りかへよ

高岡
福岡
石動
津幡

五三　加賀越中の境なる
　　倶梨伽羅山は義仲が
　　五百の牛に火をつけて
　　平家せめたる古戰場

五四　津幡七尾の其間
　　すぎゆく驛は八九箇所
　　邑智の潟の青波に
　　さをさす舟も羨まし

七尾

五五 七尾は能登の一都會
入海ひろく舟おほし
ちかき輪倉の溫泉は
町きよらかに客たえず

五六 津幡にかへり乘りかへて
ゆけば金澤ステーション
百萬石の城下にて
さすが賑ふ町のさま

津幡
金澤

五七 名も兼六の公園は
水戸岡山と諸共に
かぞへられたる吾國の
三公園の其一つ

五八 柳みどりに花赤く
おちくる瀧の水白し
雲にそびゆる銅像は
西南役の紀念碑よ

五九 第九師團も縣廳も
皆此町にあつまりて
海の外までひゞきたる
その産物は丸谷燒

六十 松任美川うちすぎて
わたる手取の川上に
雪を常磐の白山は
雲まにたかく聳えたり

松任
美川

六一 小松の北におとたかく
ながるゝ水は安宅川
安宅の關は何くぞと
問はば嵐やこたふらん

小松

六二 折りたく柴の動橋
武士が帶びたる大聖寺
こゝろ細呂木すぎゆけば
いろはの金津むかへたり

動橋
大聖寺
細呂木
金津
新庄
森田

六三 三國港の海に入る
日野川こえて福井驛
こゝに織り出す羽二重は
輸出の高も數千萬

福井

六四 大土呂鯖江あとにして
武生鯖波はしりゆく
汽車は今こそ今庄に
つきて燧の城も見つ

大土呂
鯖江
武生
鯖波
今庄

六五 海のながめのたぐひなき
杉津をいでてトンネルに
入ればあやしやいつのまに
日はくれはてゝ暗なるぞ

杉津

六六 敦賀はげにもよき港
おりて見てこん名ごころを
氣比の松原氣比の海
官幣大社氣比の宮

敦賀

六七　身を勤王にたふしたる
耕雲齋の碑をこへば
松の木かげを指さして
あれと子供はをしへたり

正田柳瀬中郷

六八　疋田柳瀬中の郷
すぎゆく窓に仰ぎ見る
山は近江の賤が嶽
七本鎗の名も高し

六九　豐太閤の名をとめし
轡の森は木の本の
地藏と共に人ぞ知る

木本

七十　汽車の進みよ待てしばし
縮緬産地の長濱に
いでゝ見わたす琵琶の海
大津にかよふ小蒸汽は
煙ふきたて人をまつ

高月

長濱

七一　驛夫の聲におどろけば
　　眠はさめて米原に
　　つきたる汽車の速かさ
　　みかへる伊吹雲ふかし

七二　おもへば汽車のできてより
　　狹くなりたる國の内
　　いでし上野の道かへて
　　いざやかへらん新橋に」

米原

明治三十三年十月十二日印刷
明治三十三年十月十五日發行

定價六錢　四集

作曲者　納所辨次郎
作詞者　吉田信太

著作者　東京市牛込區東榎木町二十番地　大和田建樹
發行者　大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番邸　三木佐助
印刷者　東京市京橋區築地三丁目十五番地　野村宗十郎
東京賣捌　銀座三丁目十字屋書店　日本橋通三丁目林平次郎　新橋竹川町共益商社

轉載譯譜謄寫不許

著權所有

三木書店音樂書略目

教育音樂講習會編纂文部省檢定濟
新編 教育唱歌集　全二冊　定價各十二錢

東京音樂學校教授小山作之助編纂
新撰 國民唱歌集　全四冊　定價各金八錢

大阪府師範學校教諭多梅稚編纂
新編 日本唱歌　全一冊　定價金十二錢

理學博士田中正平校閲田村虎藏編纂
近世 樂典教科書　全一冊　定價金四十錢

大阪府女子師範學校長大村芳樹著
音樂適用 遊戯之枝折　全一冊　定價金六十錢

東京音樂學校教授山田源一郎著
圖解 ヴワイオリン指南　全一冊　定價金五十錢

大阪府師範學校教諭多梅稚著
ヴワイオリン初步　全一冊　定價金四十錢